

S パラメータと F 行列

S パラメータ(Scattering Parameter)とは、散乱行列とも呼ばれ、高周波における、回路の基本的な特性を表すためのものである。

シグナルインテグリティの分野でも、素子や線路の特性を表すのに用いられている。

多くの場合、ネットワークアナライザを用いて解析するが、机上で、数式を用いて解析する方法について考える。

一方、F 行列(F マトリクス)は、縦続行列ともいい、1 本はもちろん、複数の線路や回路素子を縦続に接続して解析するのに適している。

なお、本稿では、S パラメータと F 行列という用語を用いているが、パラメータと行列どちらかに統一してもいいし、逆に S 行列、F パラメータしてもよい。ただ、慣用的に S パラメータと F 行列という使い方が一般的のようであるのでこのように表記した。特に深い意味はない。

1. F 行列から S パラメータへの変換

図 1 は、2 ポートの S パラメータを示す。ここに、 a は入射波、 b は反射波であり、両者は、

$$\begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} S_{11} & S_{12} \\ S_{21} & S_{22} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix} \dots\dots\dots (1)$$

の関係がある。

それぞれのポートの電圧と電流は、以下の関係がある。

$$V_1 = (a_1 + b_1)\sqrt{R_1} \dots\dots\dots (2)$$

$$V_2 = (a_2 + b_2)\sqrt{R_2} \dots\dots\dots (3)$$

$$I_1 = \frac{a_1 - b_1}{\sqrt{R_1}} \dots\dots\dots (4)$$

$$I_2 = -\frac{a_2 - b_2}{\sqrt{R_2}} \dots\dots\dots (5)$$

分布定数回路の反射解析は、図 2 の F 行列が便利であり、線路定数から導き出せる¹⁾。

F 行列の電圧と電流は、

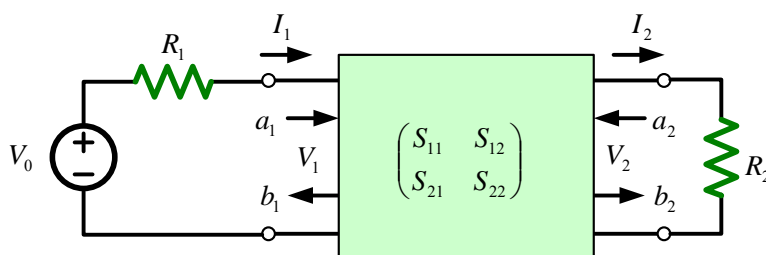


図 1. S パラメータ

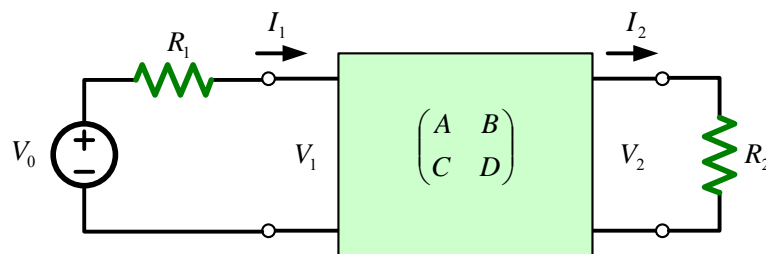


図 2. F 行列

$$\begin{pmatrix} V_1 \\ I_1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} A & B \\ C & D \end{pmatrix} \begin{pmatrix} V_2 \\ I_2 \end{pmatrix} \dots\dots\dots (6)$$

の関係がある。

式(2)～式(5)を、式(6)に代入して、式(7)のように、式(1)の形に変形する。式の変形の詳細は付録に示す。

$$\begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix} = \frac{1}{\Delta} \begin{pmatrix} \sqrt{\frac{R_2}{R_1}}A + \frac{1}{\sqrt{R_1R_2}}B - \sqrt{R_1R_2}C - \sqrt{\frac{R_1}{R_2}}D & 2(AD - BC) \\ 2 & -\sqrt{\frac{R_2}{R_1}}A + \frac{1}{\sqrt{R_1R_2}}B - \sqrt{R_1R_2}C + \sqrt{\frac{R_1}{R_2}}D \end{pmatrix} \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix} \dots\dots (7)$$

ここに、

$$\Delta = \begin{vmatrix} \sqrt{R_1} & -\left(\sqrt{R_2}A + \frac{1}{\sqrt{R_2}}B\right) \\ \frac{1}{\sqrt{R_1}} & \sqrt{R_2}C + \frac{1}{\sqrt{R_2}}D \end{vmatrix} = \sqrt{\frac{R_2}{R_1}}A + \frac{B}{\sqrt{R_1R_2}} + \sqrt{R_1R_2}C + \sqrt{\frac{R_1}{R_2}}D \dots\dots\dots (8)$$

である。ここで、 $R_1 = R_2 = R$ のとき、

$$S_{11} = \frac{\frac{B}{R} - RC}{2A + \frac{B}{R} + RC} \dots\dots\dots (9)$$

$$S_{21} = \frac{2}{2A + \frac{B}{R} + RC} \dots\dots\dots (10)$$

となり、S パラメータを F 行列で表すことができる。

2. S パラメータから F 行列への変換

式(2)～式(5)から、 a_1, b_1, a_2, b_2 を求め、これらを式(1)に代入して、左辺に V_1, I_1 、右辺に V_2, I_2 をまとめて整理する。この式を、 V_1, I_1 について解くと、式(6)の形になる。

$R_1 = R_2 = R$ のときに、

$$\begin{pmatrix} A & B \\ C & D \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \frac{S_{21}^2 + (1 - S_{11}^2)}{2S_{21}} & R \frac{-S_{21}^2 + (1 + S_{11})^2}{2S_{21}} \\ \frac{1}{R} \times \frac{-S_{21}^2 + (1 - S_{11})^2}{2S_{21}} & \frac{S_{21}^2 + (1 - S_{11}^2)}{2S_{21}} \end{pmatrix} \dots\dots\dots (11)$$

となり、F 行列を S パラメータで表すことができる。なお、式の変形は、同様に付録に示した。

3. F 行列から S パラメータへの変換の計算例

図 2 の線路断面の線路パラメータ R, L, C, G を、周波数に対して求める。線路パラメータと F 行列との関係は、

$$\begin{pmatrix} A & B \\ C & D \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \cosh \gamma l & Z_0 \sinh \gamma l \\ \frac{\sinh \gamma l}{Z_0} & \cosh \gamma l \end{pmatrix} \dots\dots\dots (12)$$

であり、伝搬定数 γ は、線路の等価回路の定数を用いて、

$$\gamma = \alpha + j\beta = \sqrt{(R + j\omega L)(G + j\omega C)} \dots\dots\dots (13)$$

と表される。なお、 l は、線路の長さである。

式(12)の F 行列から、 $R = 50\Omega$ として式(9)および式(10)を計算する。

図 3 は、 $l = 15\text{cm}$ のときの計算結果である。

多くの場合、S パラメータは周波数の直線目盛で表示されるが、対数目盛とすると電気的特性を捉えやすい。

図 4 は、図 3 の周波数軸を対数目盛としたものである。

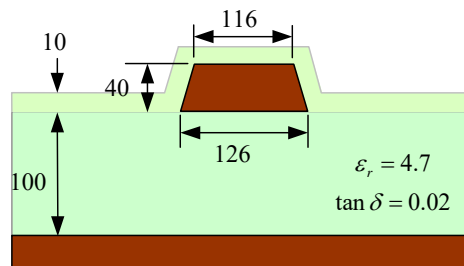


図 2. 線路断面

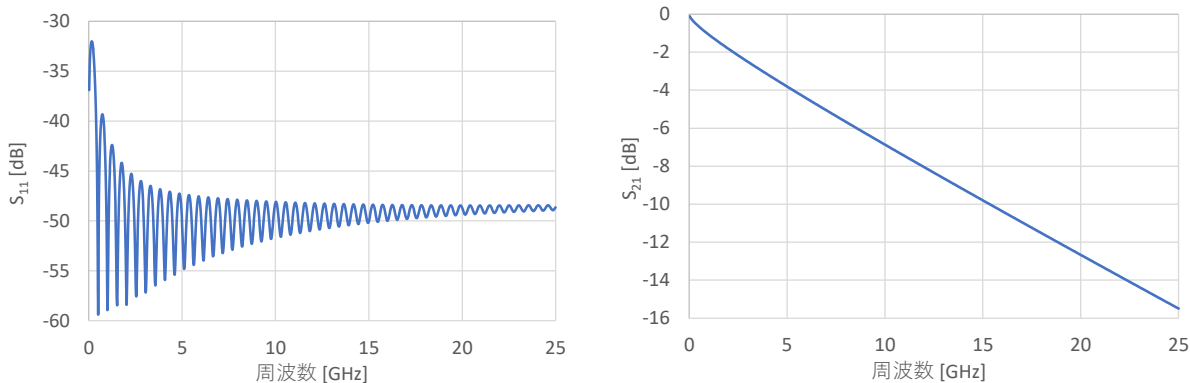


図 3. S_{11} と S_{21} (直線目盛)

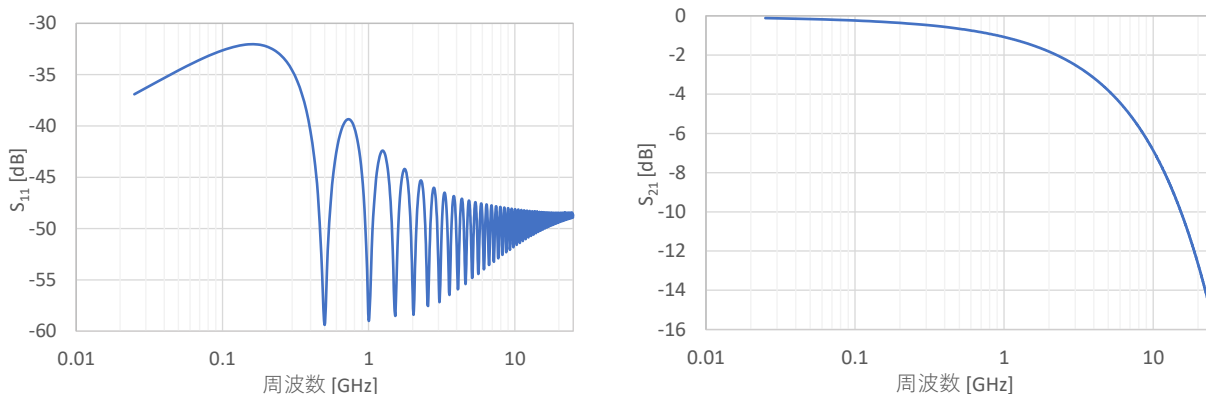


図 4. S_{11} と S_{21} (対数目盛)

さらに、図 4 の S_{21} を、縦軸の絶対値を対数目盛で表すと、図 5 のようになる。

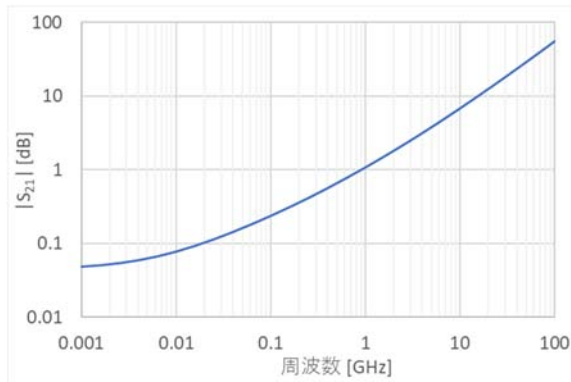


図 5. S₂₁ の対数軸表示

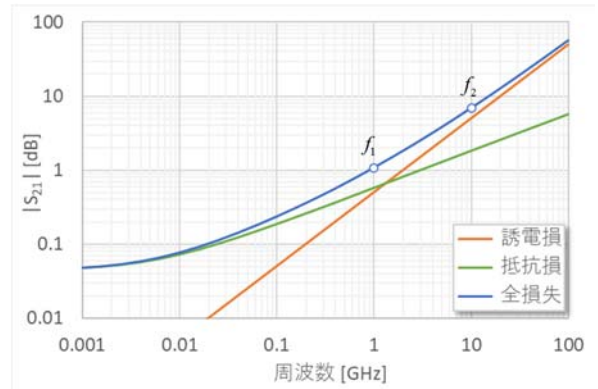


図 6. 抵抗損と誘電損の分離

図 5 の縦軸は、損失を表す。線路の損失は、誘電損と抵抗損との和であり、誘電損は周波数に比例し、抵抗損は、周波数の平方根に比例する。それぞれの比例係数を、 a および b とすると、

$$loss = af + b\sqrt{f} \dots\dots\dots (14)$$

となる。図 5 の、損失が直線とみなせる部分の 2 点の周波数、 f_1 と f_2 を選び、式(14)に代入して、係数 a, b に関する連立方程式を解く。

この結果を、図 6 に示す。誘電損は、式(14)の af であり、抵抗損は、非線形部分を含むので、全損失から誘電損を引き算して求める。

このようにすると、単なる S パラメータを眺めるだけでなく、抵抗損と誘電損とに分けて考えることができ、基板設計にも役立てることができる。

4. 波形解析

F 行列を用いると、遠端の電圧 $V_2(\omega)$ は、

$$V_2(\omega) = \frac{1}{A + \frac{B}{R_2} + R_1 C + \frac{R_1}{R_2} D} \times V_0(\omega) \dots\dots\dots (15)$$

で表される¹⁾。ここに、 R_1 および R_2 はそれぞれ、近端および遠端の抵抗、 $V_0(\omega)$ は信号源である。

式(15)をフーリエ逆変換して時間応答を求める。本コラム記載の PRBS や 8B10B を信号源とすることでアイパターンを求めることができる。

まとめ

S パラメータと F 行列とを相互に変換する方法について述べた。

このどちらかのデータが得られたときに、他方に変換したほうが解析や検討に活かしやすい場合があるので、是非変換して役立てていただきたい。

参考文献

- 1) 碓井有三：ボード設計者のための分布定数回路のすべて(改訂 3 版) 自費出版 (<http://radioy.a.la9.jp/>), pp. 156-162, 2016

付録

F 行列 → S パラメータ

式(2)～式(6)を再掲する.

$$V_1 = (a_1 + b_1)\sqrt{R_1} \dots\dots\dots (2)$$

$$V_2 = (a_2 + b_2)\sqrt{R_2} \dots\dots\dots (3)$$

$$I_1 = \frac{a_1 - b_1}{\sqrt{R_1}} \dots\dots\dots (4)$$

$$I_2 = -\frac{a_2 - b_2}{\sqrt{R_2}} \dots\dots\dots (5)$$

$$\begin{pmatrix} V_1 \\ I_1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} A & B \\ C & D \end{pmatrix} \begin{pmatrix} V_2 \\ I_2 \end{pmatrix} \dots\dots\dots (6)$$

式(6)に, 式(2)～式(5)を代入して式(付 1)および式(付 2)を得る.

$$(a_1 + b_1)\sqrt{R_1} = (a_2 + b_2)\sqrt{R_2}A - \frac{a_2 - b_2}{\sqrt{R_2}}B \dots\dots\dots (付 1)$$

$$\frac{a_1 - b_1}{\sqrt{R_1}} = (a_2 + b_2)\sqrt{R_2}C - \frac{a_2 - b_2}{\sqrt{R_2}}D \dots\dots\dots (付 2)$$

式(付 1), 式(付 2)を, 左辺に b , 右辺に a をまとめる.

$$\sqrt{R_1}b_1 - \left(\sqrt{R_2}A + \frac{1}{\sqrt{R_2}}B \right) b_2 = -\sqrt{R_1}a_1 + \left(\sqrt{R_2}A - \frac{1}{\sqrt{R_2}}B \right) a_2 \dots\dots\dots (付 3)$$

$$\frac{1}{\sqrt{R_1}}b_1 + \left(\sqrt{R_2}C + \frac{1}{\sqrt{R_2}}D \right) b_2 = \frac{1}{\sqrt{R_1}}a_1 - \left(\sqrt{R_2}C - \frac{1}{\sqrt{R_2}}D \right) a_2 \dots\dots\dots (付 4)$$

式(付 3), 式(付 4)を行列表示して,

$$\begin{pmatrix} \sqrt{R_1} & -\left(\sqrt{R_2}A + \frac{1}{\sqrt{R_2}}B \right) \\ \frac{1}{\sqrt{R_1}} & \sqrt{R_2}C + \frac{1}{\sqrt{R_2}}D \end{pmatrix} \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -\sqrt{R_1} & \sqrt{R_2}A - \frac{1}{\sqrt{R_2}}B \\ \frac{1}{\sqrt{R_1}} & -\left(\sqrt{R_2}C - \frac{1}{\sqrt{R_2}}D \right) \end{pmatrix} \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix} \dots\dots\dots (付 5)$$

を得る.

式(付 5)から \mathbf{b} を求めると,

$$\begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \sqrt{R_1} & -\left(\sqrt{R_2}A + \frac{1}{\sqrt{R_2}}B \right) \\ \frac{1}{\sqrt{R_1}} & \sqrt{R_2}C + \frac{1}{\sqrt{R_2}}D \end{pmatrix}^{-1} \begin{pmatrix} -\sqrt{R_1} & \sqrt{R_2}A - \frac{1}{\sqrt{R_2}}B \\ \frac{1}{\sqrt{R_1}} & -\left(\sqrt{R_2}C - \frac{1}{\sqrt{R_2}}D \right) \end{pmatrix} \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix} \dots\dots\dots (付 6)$$

となる。ここで、

$$\begin{pmatrix} \sqrt{R_1} & -\left(\sqrt{R_2}A + \frac{1}{\sqrt{R_2}}B\right) \\ \frac{1}{\sqrt{R_1}} & \sqrt{R_2}C + \frac{1}{\sqrt{R_2}}D \end{pmatrix}^{-1} = \frac{1}{\Delta} \begin{pmatrix} \sqrt{R_2}C + \frac{1}{\sqrt{R_2}}D & \left(\sqrt{R_2}A + \frac{1}{\sqrt{R_2}}B\right) \\ -\frac{1}{\sqrt{R_1}} & \sqrt{R_1} \end{pmatrix} \dots\dots\dots (付 7)$$

であり、

$$\Delta = \begin{vmatrix} \sqrt{R_1} & -\left(\sqrt{R_2}A + \frac{1}{\sqrt{R_2}}B\right) \\ \frac{1}{\sqrt{R_1}} & \sqrt{R_2}C + \frac{1}{\sqrt{R_2}}D \end{vmatrix} = \sqrt{\frac{R_2}{R_1}}A + \frac{B}{\sqrt{R_1R_2}} + \sqrt{R_1R_2}C + \sqrt{\frac{R_1}{R_2}}D \dots\dots\dots (付 8)$$

であるから、

$$\begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix} = \frac{1}{\Delta} \begin{pmatrix} \sqrt{\frac{R_2}{R_1}}A + \frac{1}{\sqrt{R_1R_2}}B - \sqrt{R_1R_2}C - \sqrt{\frac{R_1}{R_2}}D & 2(AD - BC) \\ 2 & -\sqrt{\frac{R_2}{R_1}}A + \frac{1}{\sqrt{R_1R_2}}B - \sqrt{R_1R_2}C + \sqrt{\frac{R_1}{R_2}}D \end{pmatrix} \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix} \dots\dots\dots (付 9)$$

となる。したがって、

$$S_{11} = \frac{A + \frac{B}{R_2} - R_1C - \frac{R_1}{R_2}D}{A + \frac{B}{R_2} + R_1C + \frac{R_1}{R_2}D} \dots\dots\dots (付 10)$$

$$S_{12} = \sqrt{\frac{R_1}{R_2}} \times \frac{2}{A + \frac{B}{R_2} + R_1C + \frac{R_1}{R_2}D} \dots\dots\dots (付 11)$$

$$S_{21} = \sqrt{\frac{R_1}{R_2}} \times \frac{2}{A + \frac{B}{R_2} + R_1C + \frac{R_1}{R_2}D} \dots\dots\dots (付 12)$$

$$S_{22} = \frac{-A + \frac{B}{R_2} - R_1C + \frac{R_1}{R_2}D}{A + \frac{B}{R_2} + R_1C + \frac{R_1}{R_2}D} \dots\dots\dots (付 13)$$

となる。

S パラメータ → F 行列

式(2)～式(5)から、

$$a_1 = \frac{1}{2} \left(\frac{V_1}{\sqrt{R_1}} + \sqrt{R_1}I_1 \right) \dots\dots\dots (付 14)$$

$$b_1 = \frac{1}{2} \left(\frac{V_1}{\sqrt{R_1}} - \sqrt{R_1} I_1 \right) \dots\dots\dots (付 15)$$

$$a_2 = \frac{1}{2} \left(\frac{V_2}{\sqrt{R_2}} - \sqrt{R_2} I_2 \right) \dots\dots\dots (付 16)$$

$$b_2 = \frac{1}{2} \left(\frac{V_2}{\sqrt{R_2}} + \sqrt{R_2} I_2 \right) \dots\dots\dots (付 17)$$

式(付 14)～式(付 17)を式(1)に代入して、式(付 18)を得る。

式(1)を再掲する。

$$\begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} S_{11} & S_{12} \\ S_{21} & S_{22} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix} \dots\dots\dots (1)$$

$$\begin{pmatrix} \frac{V_1}{\sqrt{R_1}} - \sqrt{R_1} I_1 \\ \frac{V_2}{\sqrt{R_2}} + \sqrt{R_2} I_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} S_{11} & S_{12} \\ S_{21} & S_{22} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \frac{V_1}{\sqrt{R_1}} + \sqrt{R_1} I_1 \\ \frac{V_2}{\sqrt{R_2}} - \sqrt{R_2} I_2 \end{pmatrix} \dots\dots\dots (付 18)$$

式(付 18)を、左辺に V_1, I_1 、右辺に V_2, I_2 をまとめて整理すると、

$$\frac{1}{\sqrt{R_1}}(1-S_{11})V_1 - \sqrt{R_1}(1+S_{11})I_1 = \frac{S_{12}}{\sqrt{R_2}}V_2 - S_{12}\sqrt{R_2}I_2 \dots\dots\dots (付 19)$$

$$\frac{S_{21}}{\sqrt{R_1}}V_1 + S_{21}\sqrt{R_1}I_1 = \frac{1}{\sqrt{R_2}}(1-S_{22})V_2 + \sqrt{R_2}(1+S_{22})I_2 \dots\dots\dots (付 20)$$

を得る。両式を行列表示すると、

$$\begin{pmatrix} \frac{1}{\sqrt{R_1}}(1-S_{11}) & -\sqrt{R_1}(1+S_{11}) \\ \frac{S_{21}}{\sqrt{R_1}} & S_{21}\sqrt{R_1} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} V_1 \\ I_1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \frac{S_{12}}{\sqrt{R_2}} & -S_{12}\sqrt{R_2} \\ \frac{1}{\sqrt{R_2}}(1-S_{22}) & \sqrt{R_2}(1+S_{22}) \end{pmatrix} \begin{pmatrix} V_2 \\ I_2 \end{pmatrix} \dots\dots\dots (付 21)$$

となる。左辺の係数の逆行列は、

$$\begin{pmatrix} \frac{1}{\sqrt{R_1}}(1-S_{11}) & -\sqrt{R_1}(1+S_{11}) \\ \frac{S_{21}}{\sqrt{R_1}} & S_{21}\sqrt{R_1} \end{pmatrix}^{-1} = \frac{1}{\Delta} \begin{pmatrix} S_{21}\sqrt{R_1} & \sqrt{R_1}(1+S_{11}) \\ -\frac{S_{21}}{\sqrt{R_1}} & \frac{1}{\sqrt{R_1}}(1-S_{11}) \end{pmatrix} \dots\dots\dots (付 22)$$

$$\Delta = \begin{vmatrix} \frac{1}{\sqrt{R_1}}(1-S_{11}) & -\sqrt{R_1}(1+S_{11}) \\ \frac{S_{21}}{\sqrt{R_1}} & S_{21}\sqrt{R_1} \end{vmatrix} = 2S_{21} \dots\dots\dots (付 23)$$

式(付 22)を式(付 21)に掛けて,

$$\begin{pmatrix} V_1 \\ I_1 \end{pmatrix} = \frac{1}{2S_{21}} \begin{pmatrix} S_{21}\sqrt{R_1} & \sqrt{R_1}(1+S_{11}) \\ -\frac{S_{21}}{\sqrt{R_1}} & \frac{1}{\sqrt{R_1}}(1-S_{11}) \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \frac{S_{12}}{\sqrt{R_2}} & -S_{12}\sqrt{R_2} \\ \frac{1}{\sqrt{R_2}}(1-S_{22}) & \sqrt{R_2}(1+S_{22}) \end{pmatrix} \begin{pmatrix} V_2 \\ I_2 \end{pmatrix} \dots\dots\dots (付 24)$$

式(付 24)の右辺の係数を整理すると,

$$\frac{1}{2S_{21}} \begin{pmatrix} \sqrt{\frac{R_1}{R_2}} \{S_{21}S_{12} + (1+S_{11})(1-S_{22})\} & \sqrt{R_1R_2} \{-S_{12}S_{21} + (1+S_{11})(1+S_{22})\} \\ \frac{1}{\sqrt{R_1R_2}} \{-S_{12}S_{21} + (1-S_{11})(1-S_{22})\} & \sqrt{\frac{R_2}{R_1}} \{S_{12}S_{21} + (1-S_{11})(1+S_{22})\} \end{pmatrix} \dots\dots\dots (付 25)$$

となる. これが F 行列である. $R_1 = R_2$ のとき,

$$\begin{pmatrix} A & B \\ C & D \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \frac{S_{21}^2 + (1-S_{11})^2}{2S_{21}} & R \frac{-S_{21}^2 + (1+S_{11})^2}{2S_{21}} \\ \frac{1}{R} \times \frac{-S_{21}^2 + (1-S_{11})^2}{2S_{21}} & \frac{S_{21}^2 + (1-S_{11})^2}{2S_{21}} \end{pmatrix} \dots\dots\dots (付 26)$$

となる.